



## CT 検査を受けられる方へ

### ——当院の被ばく線量低減の取り組み——

近年、放射線による被ばくが社会的に注目を浴びています。

2015年には日本診断参考レベル（以下 DRLs と記載）が作成され、2020年には最新のデータから更新された DRLs 2020 が作成されました。医療被ばくの削減が日本の医療界全体を挙げて行われています。当院で CT 検査を受けられる患者さんの中にも、「この病院での被ばく線量はどうか？」と心配されている方もいらっしゃるかもしれません。

このため、CT 検査を受けられる患者さんが納得し安心して検査を受けられるよう、当院の CT について報告させていただきます。

- 当院では2021年3月より新型の CT 装置が導入され、AI による画像の補正を行うシステム (AiCE) を使用した検査を行っております。AI による画像補正を行うことで、検査撮影時に発生する画像のノイズを減らすことが可能となり、使用する放射線量を少なくすることができます。そのため少ない線量で従来と同じような画像を表示出来るようになっています。
- また、検査する部位に応じて撮影条件を細かく設定することで病気があるかないかの診断に影響が出ないレベルまで被ばく線量を減らして撮影しています。

＜医療被ばく研究情報ネットワークの参考値（診断参考レベル2020）と  
当院の被ばく線量との比較（実効線量）（成人の体重50～70Kgを対象）＞  
診断参考レベル2020

	実効線量(mSv)
頭部	2.84
胸部	7.14
腹部	13.20

	実効線量(mSv)
頭部	1.87
胸部	3.77
腹部	5.23

### ※診断参考レベル

医療被ばくを最適化する目的で、全国の検査の平均被ばく線量から計算された医療被ばくの推奨値。画像診断において、この値を超えている場合には線量を下げることが検討すべきであるとされている。

今後も患者さんが安心して検査を受けられるよう

被ばく線量の低減に努めてまいります。

ご不明な点は担当の技師にご相談ください。

独立行政法人国立病院機構宇都宮病院 放射線科

